

『二つの幻』(使徒の働き 10 章 1-16 節) 2024.2.4.

<はじめに> 私たちが生きる世界は基本的に法則・ルールに従って粛々と進んでいきます。しかし、時に不思議なことが起こり得ます。この世界には神がおられ、超自然的なこともされますが、神は人にできることを肩代わりなさいません。人が果たす分と神が主導する分を弁える必要があります

I 幻に現れた御使い(1-6)

①神を敬うコルネリウス(1-5)

ある日の午後 3 時頃、コルネリウスは幻の中で神の使いを見ます。彼はカイザリア在住のローマ軍イタリア隊百人隊長であり、敬虔で知られ、家族挙げて神を恐れ敬う人物でした。幻の中で御使いは彼の名を呼んだ後、2 つのことを告げています。何と何ですか(4-6)。

②神の御前に覚えられています(4)

彼はローマ人でありながらユダヤ教に心酔し、できる限りのことをしていました。具体的にどんなことをしていましたか。御使いはそれらが「神の前に上って、覚えられている」と告げます。いけにえの煙が立ち上り、神に届いて受け入れられる絵と重なります(レビ 2:2)。

③さあ今、招きなさい(5-6)

御使いはコルネリウスになすべきことも告げています。ヤッファに人を遣わし、使徒ペテロを招くように。ユダヤ人は律法により異邦人と同席しません。なのに、あえてペテロを招くのは何のためでしょうか。ユダヤ人と律法を良く知る彼は、この促しをどう思ったでしょう。

II 天降る入れ物の幻(7-16)

①ヤッファに使者を遣わす(7-8)

御使いが立ち去ると、コルネリウスはすぐに 3 人を呼んでヤッファに送り出します。その 3 人に敬虔な兵士を加えたのはなぜでしょうか。コルネリウスは幻で語られたことを説明して、彼らを送り出します。カイザリアとヤッファは 60 km 足らずです。何時間ほどかかるでしょう。

②ペテロが見た幻(9-15)

翌日正午ごろ、ペテロは屋上で祈るうちに幻を見ます。天から降った入れ物には地上のあらゆる獣や鳥がいて、ペテロにこれを食するよう声がします。ペテロは何と答えましたか。答えの理由は何ですか。それに対して、もう一度声が聞こえます。何と断っていますか。

③3 度繰り返される中で(16)

「あらゆる獣、地を這うもの、空の鳥」は天から地上に降りて来て、また天に上げられます。これにはどういう意味があるのでしょうか。この光景とやりとりが 3 度繰り返されて、ペテロはどんなことを考えたのでしょうか。

III 神が描くこの世界で

①祈りのうちに

コルネリウスもペテロも祈りのうちに幻を見、語らっています。定まった祈りの習慣は大切です。いつ、どのように祈っていますか。祈りは人から神に願うとともに、神からの語り掛けと新しい気づきを祈る人にもたらします。そのような経験をされたことがあるでしょうか。

②幻で語る神

神は祈っている人に具体的に語られます。それは一見不思議で、無理難題と思われるかもしれませんが。人が「できません」と言うのは、大方「やったことはありませんか」「したくありません」です。それは私には本当にできないことなのでしょう。

③主導権は神に

まずコルネリウスに現れた神は、彼が応答すると、次にペテロに働き掛けています。これらは今はまだそれぞれでつながっていませんが、やがて一つとなって神の計画が実現していきます。神の導きと語り掛けに、時を置かずに従順に応じる者を通して実現します。

<おわりに> 私たちはそれぞれの生活の中で、自分に与えられた役割を日々生きています。それが神と結びつき、計画の実現のために用いられるように日々祈りましょう。そして、神の導きと語り掛けに素直に聞き従う者でありたいと願います。全てを導かれる神に期待して。(H.M.)